

## 琉球民族遺骨返還請求訴訟とは？

### 【事件の経過】

1928~9年、京都帝国大学の金関丈夫助教授は、琉球（沖縄）今帰仁村の百按司（おむじやな）墓から、遺骨を盗み、「研究材料」として大学に持ち去りました。按司（＝琉球王国時代の豪族）らの古墓が集中していることから「今帰仁上り」という巡礼の対象とされてきた歴史的な場所なのです。

2017年、新聞報道でこの事実を知った子孫や市民が京都大学に確認をするも、一切答えようともしませんでした。やむにや



まれず、2018年12月4日、松島泰勝龍谷大学教授を原告団長に祭祀承継者である第一尚氏の子孫など5名が京都地裁に遺骨の返還を求め、提訴しました。

原告の要求は、①遺骨をみせてほしい、②遺骨を元の場所に戻してほしい、③琉球の伝統的な方法で遺骨を弔わせてほしい、という切実な三点です。

### 【裁判の状況】

2020年7月30日で第6回弁論まで進んでいます。京都地裁の大法廷には、毎回傍聴券が配布されるほど傍聴人が詰めかけ、大きな関心が寄せられています。これまで原告5人全員が意見陳述し、3人の学者が意見書を提出しました。

この間、裁判長は、遺骨の返還に向けた和解を提案してきましたが、京都大学は、頑なに拒んでいるのが現状です。

あなたの支援をお待ちしています。

これは、「琉球と日本」の歴史とこれからの在り方を問う大きな裁判です。

京都地裁では、日本の裁判所で初めて、琉球（沖縄）への「植民地支配」の実態や国連が認めている「先住民族」の権利が、口頭弁論および鑑定意見書で訴えられています。

**盗んだ骨をもとのお墓に戻してほしい**

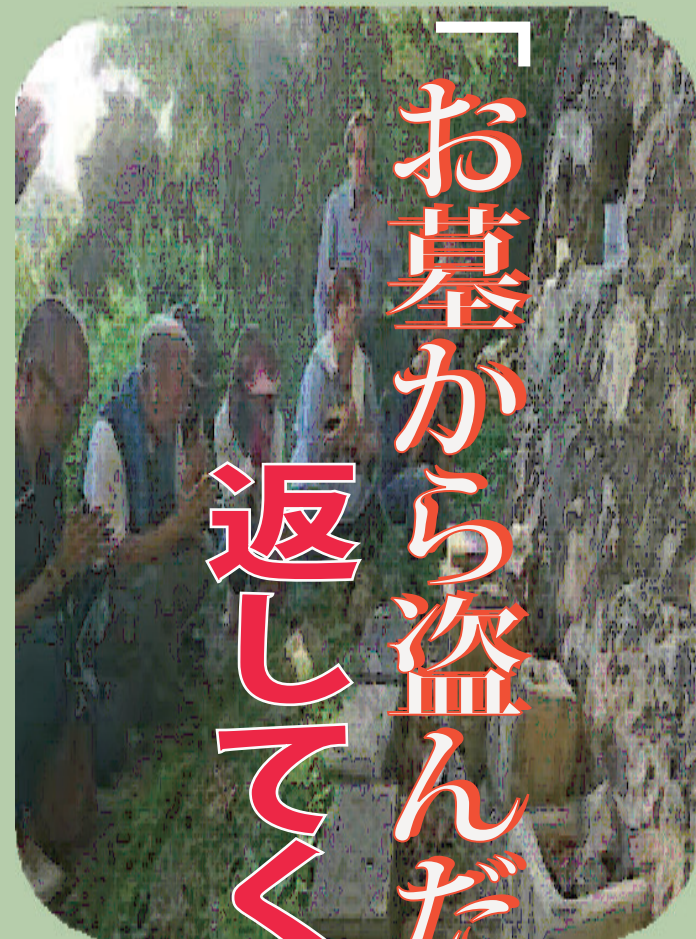
この当たり前の要求を実現するために、現在、沖縄、京都、奈良、滋賀、大阪でも支える会が活動しています。支える会/関東は、2019年9月28日に発足しました。

### 裁判カンパ・会費の送付先

【郵便振替口座】 00100-8-487832  
琉球人遺骨返還請求訴訟を支える会/関東  
【他行よりの振込口座】  
〇一九店 当座 0487832

### 【連絡先】

東京都千代田区神田三崎町 2-6-2  
ダイナミックビル 5階 たんぽぽ舎  
沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック気付  
電話 090-3910-4140  
琉球人遺骨返還請求訴訟を支える会/関東



「お墓から盗んだお骨を返してください」  
(ウフニ)

琉球人遺骨返還請求訴訟を支える会/関東

## 裁判で訴えていること

沖縄で遺骨は「骨神」(ふにしん)とよばれ、死者を大切にす文化と信仰があります。京都大学は、「ご遺骨を拜ませて欲しい」と直接訪問した子孫の人々を門前払いしました。照屋寛徳衆議院議員の国政調査権により、遺骨が京大博物館のプラスチック箱に入れられ、放置されている実態がはじめて明らかとなりました。

原告であり、第一尚氏の子孫である玉城毅さんは、「何度も百按司墓で手を合わせてきたが、骨が無いなど思いもしなかった。京都大学からご先祖の遺骨を取り戻し、元の場所で心安らかに休ませてあげたい。」と陳述しています。



むむ じゃな ばか  
百按司墓

同じく子孫である原告の亀谷正子さんは、「祭祀継承者への同意を得ることもなく遺骨を持ち出したのは盗掘であり、犯罪である。なんとしても『再風葬』がしたい。」と訴えています。

骨を盗むことは法律で罰せられる行為です。もし私たちの先祖のお墓から骨が盗まれ、「研究材料」だから返さないと言われたら、どんな気持ちになりますか？

「先住民族の権利に関する国連宣言」には、遺骨の返還が権利として記されています。

# 京都大学はなぜ遺骨を返さないのか！

## ●「学問」と称する人種差別

京都帝国大学金関助教授による盗骨は、大学として組織ぐるみの犯罪であったことが明らかとなっている。1903年の勸業博覧会では、アイヌ、朝鮮、台湾、琉球などの人々が「見世物」にされた（「学術人類館事件」）。「日本人の優秀さ」を「証明」せんがために「研究材料」として生身の人間を展示したり、盗骨したりすることが学問として正当化されてきた。先住民族の「研究」は人種差別そのものである。

## ● 大学としての「植民地主義」

裁判最中の2019年7月22日、「日本人類学会」が京都大学に「要望書」提出し、古人骨は、「国民共有の文化財」と決めつけ、返還しないように圧力をかけた。人類学会こそは1884年の結成から台湾、北海道、琉球各地で盗掘をし「日本民族の優秀さ」を強調して「植民地支配」を支えてきた。

「清野コレクション」と呼ばれるすさまじい盗掘の実態は裁判でも明らかになっている。当時の京都帝国大学と日本人類学会とは、密接な関係にあった。

## ● 「戦争犯罪」を認めない体質

日本人類学会の清野謙次から指導を受けていた京都帝国大学医学部出身の石井四郎は、中国侵略の際、731部隊で人体実験により多くの中国人を虐殺した。京都帝国大医学部が派遣した医官が実験に参加、戦後京大をはじめ各大学の医学部長として「活躍」したのである。近年、京都大学は、戦時中に発表した猿を対象とした博士論文が、人間ではないかと指摘されたが、2020年正式に「調査しない」との決定をした。



731部隊が  
人体実験をした建物

## ● 背景にある琉球・沖縄差別

1879年、明治政府は、600人もの軍隊と武装警察をもって首里城を包囲し、琉球国を併合した。そこから琉球・沖縄への植民地支配がはじまり、県の要職は全て日本人が占めることになった。京都大学が、「人骨収集の際、沖縄の警察部長を通して諸般の手続きをとったから盗掘ではない」と主張するのは、歴史的な状況を無視した居直りである。